

「社協」は、みなさんの参加とささえあいで、地域福祉をすすめる福祉団体です。

ホームページアドレス
<http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo>



編集・発行 季刊

社会福祉法人
横須賀市
社会福祉協議会
〒238-0041
横須賀市本町2-1
TEL. 046-824-3435
046-821-1301
FAX. 046-827-0264

三笠公園から猿島を望む



「こんにちは」「ありがとう」「お手伝いしましょうか」…心の中に抱えていることばや気持ちを表すのに、少し勇気が必要なときがあります。

でも、ある自治会長さんが明るく、力強く言っています。

「本当はみんな思っているよ。隣近所の人と笑顔であいさつしたり、困っている人がいれば力になりたいって。そういう人たちの背中を押してあげるのが僕たちの役目だと思うんだよね」

町を見回してみると、誰でも参加できるお祭りなどの催しや、清掃美化活動、犬の散歩の途中や、自動車・バイクで仕事をしながらできるパトロール活動など、みんなが安心して、気持ちが通い合う町にしてくれる人たちが、チャンスがたくさんあることに気がきます。

関心はあるけれど、ちょっと参加してみたいけれど…そんなとき、自治会長さんの言葉のように横須賀市社協も、背中を押せる役目でありたいと考えます。

今年はさらに魅力的な「わたしたちのまち・横須賀」を目指して、できることから一歩踏み出してみませんか。



赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

平成20年度 共同募金

「ご協力ありがとうございました」



市民の皆様を支えられている共同募金。

平成20年度も共同募金にあたたかいご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。

みなさまからお寄せいただいた寄付金は、神奈川県共同募金会を通じて民間の社会福祉を推進するための財源として活用させていただきます。

※募金の結果と配分概要は、次号(平成21年4月号)に掲載します。

(写真は10月1日横須賀中央駅での街頭募金での一コマ。横須賀市長とボランティア連絡協議会役員)



県大学生とよこすか福祉の輪市民会議とのコラボレーション!

第5回よこすか福祉の輪のつどいinうみかぜ祭

すっかりヨコスカの地元大学として定着した県立保健福祉大学。11月1日(土)・2日(日)の2日間行われた「うみかぜ祭」(大学祭)の中で、よこすか福祉の輪市民会議のイベント「よこすか福祉の輪のつどい」を、昨年に引き続き「県立大学にボランティアセンターをつくろうの会」(通称「ボラつく」)の学生たちとの協働企画で開催しました。

今回のつどいのテーマは「感じてみよう 聞いてみよう」。「感じてみよう」はその名のとおり、サポーターや重り、手袋、ゴーグルなどを装着しての高齢者、障害者、妊婦の疑似体験コーナー、車いす体験コーナーなどを設け、来場者に疑似体験を促しながら、ときには市民会議の委員自らも疑似体験。普段は比較的静か(?)な教室も大賑わいでした。

「聞いてみよう」は車いす生活を送る石井徳秀さんの講話、普段の生活にかかわる話をしていただきました。講話の時間になると、各コーナーにいる人たちも一時手を休めて石井さんの話に耳を傾けていました。

来場者の皆さん、運営に携わった学生や市民会議の委員の皆さんを中心に「福祉の輪」が大きく広がっていますように!



追浜発! 地区社協設立55周年& ボランティアセンター開設10周年を迎えました!

3つの記念事業

追浜地区社会福祉協議会(櫻井一宏会長)は、平成20年で設立55周年& ボランティアセンター開設10周年の節目の年を迎えました。同社協ではその記念事業として、①追浜地区の地域福祉活動計画を兼ねた記念誌『我が街 追浜』の発行(平成20年11月刊)、②記念講演会と③記念式典(いずれも平成20年11月20日)を開催しました。

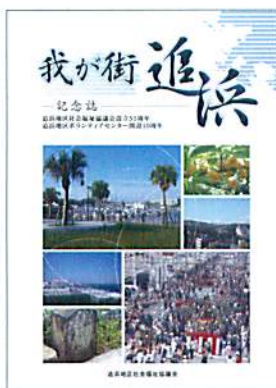
記念誌は、追浜地区の現状調査によって見えてきた福祉の課題とそれに対する取り組みについて、後半では追浜地区内にある公共施設や福祉施設、医療機関等から観光・史跡案内まで掲載しています。記念講演会の講師を務めた県立保健福祉大学の根本嘉昭教授は、「市内の地区社協で地域福祉活動計画に真っ先に取り組まれたこの記念誌は、いわば現在の追浜地区の生活課題白書だ」と話されていました。この記念誌は追浜地区の全世帯に配布され、各家庭で“追浜便利帳”として活用されることが期待されます。

また、追浜は毎年12月に日産自動車(株)主催の“全国車椅子マラソン 日産カップ追浜チャ

ンピオンシップ”が開かれることで知られていますが、追浜地区社協の55周年を機にその日産自動車追浜工場とともに「車いすボランティア探検隊」をスタートしました。この事業は、町内会・自治会、民生委員児童委員、行政センターなどの協力を得て、車いすの利用者や高齢者、子ども達にとって少しでも優しい街を目指すというねらいがあります。

第1弾として健常者が街中で車いす体験を行い、第2弾では災害時の応急避難所に指定されている学校を訪問して、バリアフリーやトイレの状況を調査。次の第3弾では、ノンステップバスの車いすによる体験乗車を計画しているそうです。

櫻井会長は、「これらの体験調査の結果から見えてきた『物理的な壁』『制度の壁』『住民の意識の壁』を、関係機関の理解を得ながら少しずつ取り除いて、追浜が福祉のモデル地区になれば最高です」と語っています。



記念誌



記念式典



車いすボランティア探検隊

必見!

アップ
～地域の力をさらにUP!～

“小さな工夫 大きな一歩”①

高齢の方の一人暮らしや夫婦世帯が増えたり、住民同士のつながりが希薄になってきていることから、「緊急時に住民同士の助け合いがうまく機能するか不安を感じる」「安否確認や援助の必要な方に関する情報が得にくい現状に苦勞している」という声も多く聞かれます。

そのような中、小さな工夫や知恵によって住民同士のつながりを強めたり、“わがまち”への意識を高める取り組みを始めている地域もあります。

久里浜地区にあるハイランド1丁目自治会では、2年前から「黄色いハンカチ運動」に取り組んでいます。この運動は、災害時に「私は大丈夫です」というメッセージを込めた黄色いハンカチを、自宅の外から見えやすい場所に掲げること、緊急の助けがなくてもよいことを住民から知らせてもらうというものです。「災害発生時、一軒一軒お宅をまわるのは難しいので、簡単・確実・スピーディで、住民にも自治会にも負担感の少ない安否確認の方法が必要です。地域の誰もがハンカチのことを理解していることによって、いざという時隣近所で助け合うことができます。」と金野義

勝会長は話します。

自治会の防災訓練の一環として行うほか年に数回訓練を行うことで、「訓練日を忘れていた」「ハンカチの保管場所を忘れてしまった」という方が少しずつ減っており、今後防災訓練の参加者が増えることが期待されます。金野会長は「ハンカチを掲げることで『自分も地域の活動に参加している』と感じられ、一体感が得られることは意義が大きい」と言います。自治会役員のほか民生委員や社会福祉推進委員も協力してハンカチが掲げられているか確認していることも、地域のみんで支えあう気持ちが一層高まっている理由の一つであるようです。

自治会未加入世帯も含めて全戸にハンカチを配布したところ、運動を始めてから自治会加入者が増えたり、他の自治会にも運動が広がるなど、「幸福の黄色いハンカチ」がハイランドの中ではためき始めています。

＊小さな取り組みも、動き始めることによって地域の力になります。「うちの地域ではみんなでこういう活動をしているよ」という情報を市社協へお寄せください。



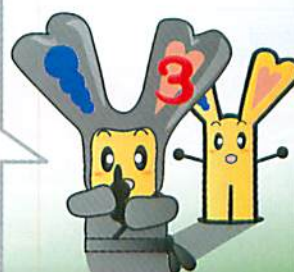
★団体(1団体) (財)電力中央研究所

★個人(96名)
喜多十三雄、田中清、田中正江、本間嘉弘、松島きみ子、長嶋利夫、山口浩、鈴木喜正、鈴木君代、斎藤昭枝、氏原信子、山田久子、藤掛一子、山岸幸子、江川正美、江川静子、三木早苗、小林繁、岩間道夫、杉山茂一、鈴木敏和、石垣誠一、亀井純二、濱田千八、松本勇雄、大森治郎、小林利彰、飯島幸夫、高木英俊、後藤一也、松原廣志、植野不二夫、星野雅一、三守進、奥谷洋子、濱野伸治、大友佐登志、大坪輝子、大竹一之、青木秀介、笹原鶴夫、前田幾代、水上よし、神崎瑞枝、瀧野英子、飯島心み江、一万井幸子、井出美佐子、倉科睦子、土田郁美、大槻節子、白井幸江、大久保徹、竜崎知治、龍崎信子、浅野みつ江、白石義和、寺本基、中村由記枝、末廣良子、小澤日子、原田圭子、一ツ谷栄久、藤尾良孝、小野みゆき、白鳥由佳子、渡辺秀子、武内宏、篠原登茂恵、山中静代、永嶋たき江、穂本裕子、横地甲子夫、小池俊雄、高橋和雄、二見道乃、三吉幸子、平野昭弘、平野徳子、杉野春美、石渡寛子、相澤智子、飯島輝子、神川彰、根岸恵美子、笹岡純子、岸岳、岸美千代、福本洋子、飯田洋介、二見勝、鳥山豊男、鳥山佐代子、廣部栄夫、尾崎哲夫、辻村房子

平成20年9月1日～11月30日(順不同・敬称略)

「賛助会員募集中」
★お名前とご住所を、表紙にある連絡先へ、電話、はがき、FAX、Eメール等でお伝えください。
三浦藤沢信用金庫と湘南信用金庫の振込用紙(両信用金庫のご協力により振込手数料が無料になります)を送付させていただきます。
団体会員 一口5000円
個人会員 一口1000円
会費は年会費となっており口数は何口でも結構です。

賛助で参上!
社協活動応援団



賛助会員のご紹介

活動計画における 7つの取り組み目標③

平成20年3月に横須賀市社会福祉協議会が策定した「地域福祉活動計画」(第3次)では、地域にある課題を整理して、その解決に向けて「7つの取り組み目標」を掲げています。

- A. 一人ひとりが地域や福祉への理解を深めよう
- B. 子どものころから地域や福祉にふれられる環境をつくっていこう
- C. 身近な地域における福祉活動を進めていこう
- D. さまざまなボランティア活動・市民活動を進めていこう
- E. **誰もが安心して生活できる仕組みをつくっていこう**
- F. **多種・多様な機関・団体・個人の協働を進めていこう**
- G. **理解・対応が不足している問題にも目を向けていこう**

目標E

誰もが安心して生活できる仕組みをつくっていこう

★わたしたちができること

- 悩みや不安をなるべく一人で抱え込まないようにし、身近に相談できる人をつくっておこう
- 日ごろから相談機関・窓口などの情報を集めておこう
- 外からは見えにくいさまざまな悩みを抱えている人たちがいることをお互いに意識しよう
- 見守りが必要な人がいたら、地域全体の目で見守っていこう

★福祉施設・関係機関ができること

- 提供する福祉サービスについて、わかりやすく情報を地域に伝えていこう
- 関係機関、窓口がそれぞれ専門性を高めつつお互いに情報を共有し、協力してニーズに対応できるようにしよう
- 新しく把握されたニーズに対して対応できる仕組みを検討していこう

★市社協の取り組み方向

- 災害時に備えた取り組みを日ごろの見守り活動に活かすしくみづくり
- ひとり暮らしのお年寄りや障害のある人などの見守りネットワークの整備
- 福祉施設・関係機関・団体同士のネットワークづくり

目標F

多種・多様な機関・団体・個人の協働を進めていこう

★わたしたちができること

- みんな同じ地域の仲間であることを意識し、地域資源同士がお互いの得意分野を持ち寄って協力していこう
- 大学、自衛隊、米海軍横須賀基地など横須賀市特有の地域の資源を活かし、共に協力できる関係をつくっていこう

★福祉施設・関係機関ができること

- みんな同じ地域の仲間であることを意識し、地域資源同士がお互いの得意分野を持ち寄って協力していこう
- 大学、自衛隊、米海軍横須賀基地など横須賀市特有の地域の資源を活かし、共に協力できる関係をつくっていこう

★市社協の取り組み方向

- 地域福祉の推進に向けたさまざまな地域資源の協働の模索

目標G

理解・対応が不足している問題にも目を向けていこう

★わたしたちができること

- 現在の仕組みでは対応されにくい、ホームレス、不登校、ひきこもり、在住外国人、ひとり親家庭等の問題やニーズがあることを知ろう
- 地域にはさまざまな悩みをもつ人たちがいることを理解し、差別、偏見のない地域づくりに努めよう

★福祉施設・関係機関ができること

- 新しいニーズや緊急時の対応などについては、福祉の専門機関として最大限の努力をしよう
- 新しいニーズに対する制度・サービスの実施を行政に提言しよう

★市社協の取り組み方向

- 理解・対応されにくい問題に対する理解の促進と支援の模索



<土・日曜日>も開いています。

くらしの相談 相談は無料

お客様相談室

ご相談内容：相続・年金・資産運用・税金・その他よろず相談をお受けしております。

お取り次ぎどころ

お取引店へ各種書類をお取り次ぎいたします。

横須賀中央駅前出張所 2階

フリーダイヤル ☎ 0120-046801

営業時間 午前10:00～午後7:00

お休み 12月31日から1月3日まで、および平日が休日の場合はお休みとさせていただきます。

TRiBank Miura Fujisawa 三浦藤沢信用金庫

市社協・役員体制

平成20年12月1日付けで任期満了による役員の改選があり、次の方が就任しました。

(任期 平成20年12月1日～平成22年11月30日)

(順不同・敬称略)

理事(定数十七名)

会長 藤原 尉夫
副会長 鈴木 立也
監事 鶴田健次郎
監事 石渡 昌敏
顧問 阿部 志郎 横須賀基督教社会館会長

阿部 絢子 阿部睦会会長
宮田 丈乃 長井婦人会保育園園長
鈴木 立也 大津地区民生委員児童委員協議会会長
田中 靖子 久里浜第一地区
民生委員児童委員協議会会長

古屋 昭夫 横須賀保護司会会長
横地甲子夫 横須賀市障害者団体連絡協議会会長
長田 絢子 横須賀市ボランティア連絡協議会会長
但馬 明 久里浜地区社会福祉協議会会長
小鷹 恒夫 長井地区社会福祉協議会会長
西田 和恵 横須賀市議会民生常任委員会委員長
小林 繁 横須賀市健康福祉部長
浜田 哲二 横須賀商工会議所専務理事
西原 徹 横須賀市連合町内会会長
澄川 貞介 横須賀市連合町内会副会長
藤原 尉夫 横須賀市連合町内会副会長
太田 貞司 神奈川県立保健福祉大学
社会福祉学科教授
高木 進 横須賀市社会福祉協議会事務局長

評議員(定数三十五名)

高木 睦子 長岡保育園園長
小林勇次郎 太田和保育園園長
栗田 敏彦 やまびこ荘施設長
森 弘樹 ヒューマン施設長
菅原 茂樹 湘南病院事務部長
飯野 雄彦 ゆう総合施設長
佐野美智子 上町第二地区
民生委員児童委員協議会会長
小林 好明 田浦地区民生委員児童委員協議会会長
今野 幸子 衣笠第二地区
民生委員児童委員協議会会長
小川 英樹 武山地区民生委員児童委員協議会会長
竜崎 知治 長井地区民生委員児童委員協議会会長
高橋 恵子 大楠地区民生委員児童委員協議会会長
須藤 貞治 横須賀保護司会副会長
井出 聖子 横須賀保護司会副会長
河野 こん 横須賀保護司会西支部副支部長
大武 勲 肢体不自由児者父母の会会長
茂木 昭 ワークショップひまわり所長
千葉 茂 横須賀市ボランティア連絡協議会副会長
桑原 照明 港南地区社会福祉協議会会長
手塚 敦子 中央地区社会福祉協議会会長
白井 静明 上町第二地区社会福祉協議会会長
鈴木 一良 逸見地区社会福祉協議会会長
杉田さとし 横須賀市議会民生常任委員会副委員長
龍崎 和人 横須賀市財政部長
岩間 道夫 横須賀市健康福祉部健康福祉総務課長
外川 昌宏 横須賀市教育委員会生涯学習部長
山形寿太郎 横須賀市医師会会長
日隈 栄二 横須賀市歯科医師会会長
米山 豊平 横須賀市薬剤師会会長
清水 健一 日本ボイススカウト神奈川連盟
横須賀地区協議会地区委員長

福祉教育地域ネットワークフォーラム

～小中高等学校での福祉体験学習について考える～

目的：福祉教育・ボランティア学習に先駆的に取り組んできた、横須賀市の高校生福祉体験学習「はまゆうキャンプ」を事例に、学校、施設、社協関係者等が集い、福祉体験・ボランティア学習のこれまでの成果の検証と今後のあり方について検討します。

また、学校や社会情勢の変化に伴って求められている新たな視点等を考慮しながら、今後の具体的な取り組み方法、目指すべき方向性等について協議する機会をつくることで、社協が行う福祉教育・ボランティア学習の意義、役割等を考えます。

日時：平成21年2月12日(木) 13時30分～16時30分
場所：横須賀市立総合福祉会館2F 第2会議室
対象：高等学校教員・施設職員・学生・生徒・その他関心のある関係者
コーディネーター：常磐大学コミュニティ振興学部教授 池田 幸也 氏
定員：40人
参加費：無料
申し込み：よこすかボランティアセンターへ電話・ファックス・メールにてお願いします。
電話.046-821-1303 FAX.046-824-8110
E-mail:shakyo-v@abox22.so-net.ne.jp
主催：横須賀市社会福祉協議会
神奈川県社会福祉協議会

加藤 茂雄 横須賀市連合町内会副会長
清野 康雄 横須賀市連合町内会幹事
高須 和男 横須賀市連合町内会幹事
尾崎 哲夫
大倉 國光

冬の入会キャンペーン



日本代表を4名輩出した本格的指導

特典
1 入会金
5,250円
100%OFF

特典
2 幼児・ジュニアクラス 指定用品一式プレゼント!
ベビークラス ヘルパー+スイミングキャッププレゼント!
大人クラス ゴーグル+スイミングキャッププレゼント!

特典
3 初月度授業料
50%OFF

イトマンスイミングスクール横須賀校

横須賀市日の出町3-11
http://www.e-itomane.co.jp/

☎046-823-6170

団塊の世代のみなさん注目! <シリーズ⑨ 最終回> 地域デビューした先輩ヘインタビュー!

好きだから、楽しいからかな?

おもちゃドック「よこすか」代表 月永 勉さん

毎月第1土曜日に、おもちゃの病院を開院している、おもちゃドック「よこすか」代表月永勉さんに、ボランティア活動の原点についてお話をうかがいました。

月永さんにとってのボランティア(社会参加)活動は、小学4年生のとき担任の先生に薦められて、河童座という劇団の子役を務めたのが最初でした。途中、数年間の中断はありましたが、高校卒業後再びカップ座の活動に参加しました。

活動拠点だった県立横須賀青少年会館(現在の横須賀市青少年会館)はいくつものグループが活動拠点にしている、グループの代表者会議を通して互いに交流がありました。そんな中で始まった『手作りの夏祭り』はグループが協力しあい多くの人達に楽しんでもらい、その後、青少年会館の恒例行事になりました。

また、県の海外青少年派遣の誘いを受けて、ヨーロッパへ1ヶ月間の研修に行ったとき、研修期間の半分以上を過ごしたドイツ(当時は西ドイツ)で、青少年がいぎぎと活動してい



る様子を目の当たりにしボランティア活動に対する視野が広がりました。

30数年前、横須賀市の「ゴミと生活展」というイベントが文化会館で行われたときのこと。企画の一つで「壊れたおもちゃ直します」というコーナーをまかされたことがあります。これが現在のおもちゃの病院になるきっかけでした。それは青少年会館のおもちゃを分解・修理する事が好きな仲間3~4人で取り組みで3年ほど続き、その後も消費生活関連のイベントに県内各地からの出張依頼にこたえています。平成14年に横須賀市社協の依頼で「おもちゃの病院ドクター養成講座」を開催したときは、定員20名のところに100名以上の参加希望があったそうです。養成講座は毎回20名ずつ、3年間続けました。受講後のおもちゃドック「よこすか」への入会希望者も多くあり、当初は新しい人と古い人との間に溝が出来そうになったこともありましたが、会の運営を工夫しながらそのつと問題を解決し、乗り越えてきました。

文化会館で始めてから30年以上、現在では25人のドクターが活躍しています。「壊れたおもちゃを直す緊張感と直ったときの爽快感」、「直ったおもちゃを喜んで持ち帰る姿を見る嬉しさ」と二つの自分にかえてくる嬉しさが味わえると月永さんは話します。

最後に、今後ボランティア活動をしようとする方へのメッセージを頂きました。「無理はしない。好きだから、楽しいから出来る。続けられる。」「活動に迷いが生まれたら自分の気持ち確かめてみたら?」と笑顔で話していました。

<今年度のおもちゃの病院>

開院日: 1月10日、2月7日、3月7日(いずれも土曜日)

場 所: 市立総合福祉会館4階 ボランティアセンター第1活動室

災害時に備えた学校の体育館での宿泊体験 ~寒さ(さむさ)を体感~

災害が起きると、多くの人たちは「応急避難所」へ避難することになります。現在、横須賀市が指定している応急避難所の多くは学校の体育館です。今回は、豊島小学校にご協力いただき、1日ではありますが、体育館で寒い中、夜を明かす体験をし、避難所で生活することの意味を考えます。

(参加できる方)

- ・宿泊体験に興味のある人や、防災や災害活動に関心のある人
- ・小学生以上(小学生は保護者同意が必要)。市外からの参加もできます。
- ・健康上宿泊に問題のない方。

日 時: 1月17日(土)17時から1月18日(日)7時まで(宿泊します)

場 所: 市立豊島小学校(横須賀市上町3-21 横須賀税務署そば)

参 加 費: 500円(保険代、その他事務費とします)

募集人員: 50名(先着)

申し込み: 電話・ファックス・E-Mailのいずれかでボランティアセンターへ

主 催: 横須賀災害ボランティアネットワーク

(事務局: 横須賀市社会福祉協議会よこすかボランティアセンター)

「地震防災に関する市民協働モデル事業」実行委員会

住宅ローン・消費者ローン等のご相談・お申込は
湘南しんきん各ローンセンターへ

ローンセンターは休日も営業しております。

■本 店ローンセンター 0120-413-357

■上大岡ローンセンター 0120-470-417

■久里浜ローンセンター 0120-472-195

■茅ヶ崎ローンセンター 0120-472-194

SHONAN

湘南信用金庫

ホームページアドレス

<http://www.shinkin.co.jp/shonan>



ボランティアコーナー

よこすかボランティアセンター

開 所 月曜日～土曜日 9時～17時(日曜日と祝日は休み)

場 所 〒238-0041 横須賀市本町2-1

汐入駅から徒歩6分「ショッピングプラザ横須賀」の右となり、市立総合福祉会館の4階です。

電 話 (821) 1303 (825) 0017/FAX(824) 8110

E-mail shakyo-v@abox22.so-net.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/vc/>

ボランティア大募集

①募集团体・メロディー

内 容: 昼食作りのお手伝い

日 時: 2月22日(日) 9時45分～15時

場 所: 市立総合福祉会館

★ダウン症のお子さんのグループです。

②募集团体・らぼにー

内 容: 発達障害のお子さんとそのご兄弟の遊び相手

日 時: ①1月10日(土) 13時～16時

②1月24日(土) 10時～14時

③2月 1日(日) 10時～15時

④2月22日(日) 10時～14時

いずれも内1～2時間

場 所: 市立総合福祉会館

★4～12歳までの発達障害のお子さんとそのご兄弟のグループです。

活動時間は時間内であればボランティアの都合で可。



企業のボランティア活動・社会貢献活動セミナー ～企業も地域社会もより良くなる活動とは?～

日 時: 平成21年2月26日(木) 13時30分～16時30分

場 所: 横須賀市立総合福祉会館2F 第2会議室

対 象: 企業の社会貢献やボランティア活動に興味、関心のある方

内 容: 第1部/パネルディスカッション

「企業も地域社会もより良くなる活動とは?」

発表者①: UBS証券株式会社

コミュニティ・アフェアーズ 堀 久美子さん

※企業のさまざまな資源を活用しながら、多くのNPOや福祉施設と協働しながら多彩な社会貢献活動を展開しています。その考え方と方法論をご紹介します。

発表者②: NPO法人 多文化共生センター東京

田中 阿貴さん

※東京都荒川区を拠点に、外国籍の子どもたちの学習や進学を支援するNPO。いろいろな企業と活動した経験と、協働のポイントについてお話しします。

進行・助言: 東京ボランティア・市民活動センター

河村 暁子さん

多くの企業とNPOをつなぎ、新しい社会貢献活動を創り出す中間支援組織。企業の社会貢献のトレンドや進め方についてアドバイスします。

第2部/グループディスカッション

「企業と一緒に何ができるのか?」

参加者がグループにわかれ、参加者の取り組みについて紹介しながら、一緒に取り組んでいける可能性についてディスカッションします。

定 員: 40人

参 加 費: 無料

申し込み: 電話・ファックス・E-Mailのいずれかでボランティアセンターへ

ボランティア講座づくりサポーター募集 ～企画をとおした学びあい～

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターの講座づくりを皆さんと一緒に企画し、学びあいの関係づくりを行うためのサポーターを募集します。

月1回程度会議を行い、委員の皆さんと講座の企画、実施をしていきます。年齢、性別、職種は問いません。どなたでも参加できます。

例えば…

★「企業ができるボランティアを知りたい!」 ★「災害のことを深めたい!」

★「一時保育の担い手を育てたい!」 ★「傾聴をもっと学びたい!」

★「地域の人が学校の活動に協力できることを知りたい!」

★「最近良く聞く、学習障害について学びたい!」 など

活動期間: 平成21年1月末～平成23年3月

活動場所: 主に市立総合福祉会館

募集人数: 20名程度

開催日時: 月1回程度(曜日・時間は後日調整)

応募締切: 1月16日(金)

申し込み: 電話・ファックス・E-Mailのいずれかでボランティアセンターへ

企画・デザイン・写真撮影から印刷まで

企画からデザイン、写真撮影、印刷、製本までの一貫した対応により、スピーディーかつローコスト化を実現します。高品質な仕上がりでお客様の要望にお応えします。



企画・デザイン・印刷・製本
株式会社 アド・ワークス

・チラシ広告 ・ポスター ・パンフレット ・冊子 ・記念誌
・名刺 ・伝票 ・カレンダー ・封筒 ・のぼり旗・幕 ・シール
・POP各種 ・販促物取付器具 ・写真撮影 ・ラミネートフィルム
・名入れグッズ各種 ・その他印刷物全般

〒239-0807 神奈川県横須賀市根岸町4-9-13

TEL.046-833-1010(代) FAX.046-833-0622

e-mail: eigyou@e-adworks.com



お気軽にご相談下さい

秘密厳守

※場所はいずれも市立総合福祉会館2階です。

相談日が祝日に当たるときはお休みとさせていただきます。／12時15分～13時はお昼休みとさせていただきます。

権利擁護相談(弁護士相談)

このようなことで困っていますか？

● 障害のある子どもに財産を残したい

● 障害のある兄弟が借金の返済を迫られている

● 認知症のある親が知らない間に、高価な買物をしていた

高齢の方、障害のある方の権利を守るための相談に弁護士がお答えします。

【予約制】

事前に職員が相談内容をお伺いします。

● 毎月第3水曜日
13時～16時

一人45分です。

予約はTEL(821)3605

生活福祉資金貸付相談

地域における自立生活を支援するため、生活福祉資金貸付相談を受け付けています。

【相談にあたって…】

①使用目的別に資金貸付があります。
(一般生活費は貸付できません)

②地区担当民生委員による相談援助活動が行われます。

③借受人世帯の自立を支援できる連帯保証人が必要です。
(市内在住の方)

【予約制】地区担当民生委員とともに相談内容をお伺いいたしますので、来所前に必ずご連絡ください。

● 毎週月・水・金曜日
9時～17時

予約はTEL(821)1301

地域福祉課 生活福祉資金担当

介護相談

福祉機器や介護について介護福祉士がお答えします。

● 毎週月曜日～金曜日
10時～16時

福祉機器展示場
電話相談

TEL(824)9436

住宅改造相談

ちよつとした工夫や改造をすることで、暮らしやすい家になることができます。

障害者や高齢者のより住みやすい環境をつくるために、神奈川県建築士事務所協会横須賀支部の建築士をはじめ、介護福祉士が相談に応じます。

【予約制】

● 毎月第4水曜日 10時～15時
予約はTEL(821)1301

地域福祉課

里親制度について 学ぶ講座

「里親制度」は、親の離婚や病気などさまざまな事情により家族と一緒に生活することのできない子どもたちのために、信頼と愛情に満ちた家庭的な養育の場を保障する制度です。

未来を担う子どもたちがすくすくと成長していけるよう支援する里親制度について学ぶ講座を開催します。

〈日 時〉

1月31日・2月7日、14日の土曜日
10時～12時(全3回)

〈場 所〉

市立総合福祉会館・児童養護施設春光学園

〈内 容〉

里親制度について・里親体験談・
児童養護施設の説明と見学・
グループディスカッション

〈対 象〉

原則として全ての回に参加できる方

〈参加費〉無 料

申し込みは、電話、ファックス、Eメール
(cgcp-cfr@city.yokosuka.kanagawa.jp)
で横須賀市児童相談所へ。

横須賀市児童相談所

TEL.(820)2323 FAX.(826)4301

ありがとう

社会福祉のために、次の方々から温かい寄付がありました。

平成20年9月1日～11月30日

(敬称略)

(株)根岸工務店、郵便局事業協力会、玉井歌謡塾、合唱団ローズ、船橋珠枝、バーラ風羅巴、横須賀落語愛好会、米山恵美子、三浦藤沢信用金庫、ウインストン、ウインストンチャリティー3周年参加者、高橋文枝、みどり会、横須賀カントリーミュージック&ダンス協会、よこすか葉山農業協同組合「虹の会」、大津2丁目老人生がいの家、船越7丁目梅友会・船越7丁目第2梅友会、横須賀市生涯野球連盟チャリティーゴルフコンペ、栗田敏彦、宇野智恵、梅田英治、横川和司、手島たよ子、上町第2地区ボランティア

イアセンター、横須賀市生涯学習課、横須賀シルバー人材センター、水谷正昭、衣笠地区ボランティアセンター、大津地区ボランティアセンター、中里末子、山田智恵子、早乙女明代、西あゆみ、梅田達子、諏訪佐知恵、バーラ風羅巴、山下貴美男、三浦藤沢信用金庫、スコレ、豊の坪町内会、山崎峰宗、手話サークル逸見、柳田和代、渡辺訓宏、西行政センター、たんぼほの会、横須賀美術協会、横須賀市都市施設公社、久里浜地区ボランティアセンター、横須賀市長寿社会課、船越7丁目梅友会・船越7丁目第2梅友会、ミツミ製作所、長田絢子、LINKマネージメント、山下勝弘、大橋地区ボランティアセンター、匿名

寄付金 二十六件

物品 四十三件 六六三、九七円

あとがき

いま高齢者問題は、大きな課題に直面している。それは、認知症介護のあり方をどうするかだ。

要介護者のうち約半数は、認知症を患う高齢者といっても過言でない。不眠、徘徊、妄想等の行動障害を持つ一人暮らしの親の介護のために同居したが、予想を超える介護負担に苦悩する長男の嫁。一人暮らしの高齢夫妻で、認知症の夫を介護してきた妻が買物、金銭支払、食事支度ができない認知の症状を呈し、日常生活に支障が出てきたが、住み慣れた自宅での暮らしを希望する「認知介護」の夫婦。娘婿と二人暮らしで、生活を支えられてきた認知症の高齢男性が、その婿の手術のための入院治療で、一人では生活できなくなり、婿もそれ

が心配で治療に専念できない男性所帯。ターミナル期の夫(食道がん切除手術で経管栄養を子どものいない認知症の妻が夫の服薬管理、栄養食補給等不安な要素を抱えつつヘルパーや訪問看護師の指導を受けながらの介護。いずれも現実には発生している事例である。

国は、介護を必要になっても住み慣れた地域で生活を継続できるよう地域の実情に合った介護サービス基盤を整備するよう求めている。しかし、認知症介護の実態は、事例に見られる通り、介護上、頼りになる家族の存在を前提とした従来の介護パターンを超えている。介護の状況は、これからも刻々と変化する。これを的確に見通し、安心できる介護サービス基盤を早急に整備すべきときが到来している。